山行報告書

通算山行NO	NO・175S	報告者	加藤秀子
年月日	'00年 4月07日（金曜日）～	年 4月09日（日曜日）	
山行名	登山と山スキー	天候	
山名	火打山（2462m）		
この山のセールスポイント	初めてのスキーツアーは太平洋側から火打山を越えて日本海側へ縦断		
コース及びタイム	裾野13:00 ⇨富士IC13:40 ⇨中央高速道路⇨杉野沢18:00(車中泊)		
標高差	△S ～T = m	体力度	1・2・3・4・5・6
	▼T ～G = m	技術度	1・2・3・4・5・6
走行距離	下土狩 ～杉野沢 = 360 km	展望度	1・2・3・4・5・6

参加者	CL	後藤隆徳	53	待望の妙高、小田チャン参加出来て良かった。
		小田知典	51	妙高高原、不景気のせいか淋しい。苗名の湯が良かった。
		加藤秀子	51	自分の不始末に、モー嫌！ つつがない山行がした～い。

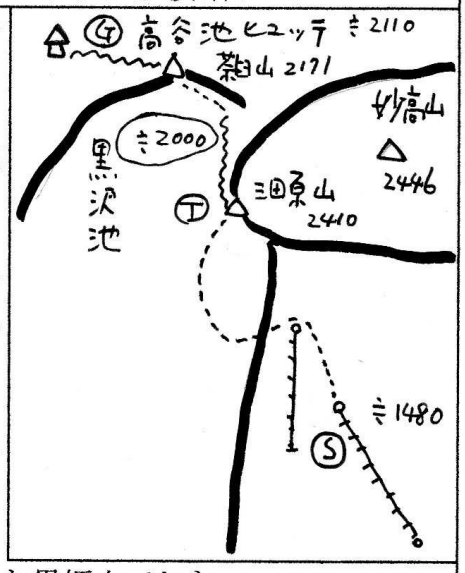
上信越自動車道に入ると、車窓から見える景色は一変する。左手に戸隠山、黒姫山、湿った雪に苦労した雨飾山が懐かしい。右手には、昨年登った高社山が思いがけない雄々しい姿で現れた。妙高高原ＩＣを抜けて右折。そして直ぐの信号右手に入り、道なりに暫く行くと杉野沢温泉のなかに妙高高原スキー場はあった。先々週の栂池高原スキー場の華やかさに比べると、又随分と閑散として寂れた感じのスキー場である。この時間帯にゲレンデは勿論、施設の従業員すらもいない。仕方なく民宿街に引返し、一軒だけ開いていた此れも又閑古鳥の食堂に様子を聞きに行く。計画では 1855mの三田原迄文明の利器を利用して標高を稼ぐつもりであったのが、其処までいっているリフトは先週で終り、その下迄のゴンドラが動いているのみとの事。歩くと約１時間はかかるという。予定が大幅に狂いガッカリ肩を落としたが、此のゴンドラも今週で終り、スキー場は閉めるという事を聞いて今度は『来週だったら行けなかったよ。やっぱりついていたんだね』と単純に喜んだ。ゴンドラの始発は８時３０分。明日の出発はゆっくりでよいからと、目の前にあった町営の温泉に入る事にした。

『加藤。鍵は持ったな』『はい。持ちました』『持ったんだな』『はい』珍しく何回も聞かれ、念の為に車を覗くと、鍵を付けたままロックしてある。サァーと血の気が引いた。『何でお前はいつもそうなんだ！』直ぐさま頭の上から雷が落ちてきた。仕方がないか自業自得だものと反省しつつ走り回り、ＣＬが探したブリキ板に私が借りてきたヤスリで切込みを入れ、何とかドアを開ける事に成功した頃には、どっぷりと日は暮れていた。

やれやれとＣＬ。しょんぼりする加藤。まぁまぁと小田。ところが温泉会館に入ってみて気分は一新。広～い休憩室の座敷には誰もいない。お湯、お茶つき、テレビつきで何と４００円。人の良さそうなおばさんにつられて、つい此処で御飯を食べても構わないか？と聞くと、案の定『誰もいないからいいですよ』との返事。ちゃかり甘えさせていただいた。風呂はまったりとした無色透明の、身体の芯まで温まるいい湯である。閉館の２１時迄贅沢な時間を過ごしトイレのある場所の近くへ移動。車中泊とする。『今回の山行で、先ず一発目だな』ときつ～いＣＬの一言で夜は更けていく。明日からレイホー初のスキーツアー。どうなる事やら。ﾅﾏｽﾃ

山　　名	三田原山から高谷池ヒュッテ	報告者	小田　知典
この山のポイント	**妙高外輪山から黒沢池、高谷池へ滑り込む**		
コース	4月8日　晴れ（二日目）	起床5:30～ゴンドラ8:30～終点8:40／9:00登山開始 ～三田原山稜線11:45／12:05～三田原山12:30／12:58(滑降) ～高谷池ヒュッテ13:55	
標高差	△ゴンドラ上1480～三田原山 2410 ≒930 m ▼三田原山 2410 ～黒沢池 2000 ≒410 m △　沢池 2000 ～茶臼山 2171 ≒171 m	体力度	1 2 3 4 ⑤ 6
		技術度	1 2 3 4 ⑤ 6
		展望度	1 2 3 4 5 ⑥

参加者				
	CL	後藤　隆徳	53	皆で山に来られる幸せ、ありがとう！
		加藤　秀子	51	大きな山での初ツアー、自然は大きいと実感、、、。
		小田　知典	51	二年目のスキー登山、キビシイながらも面白い！



人気の山スキーエリア、火打山！　山岳誌、ホームページなどで雪深い頸城三山の情報が沢山流れていて、真っ白な火打山のスカイラインから滑る自分の姿を想い描き、ウ～ットリ！　しかし、私が住んでいる伊豆の下田から北に一直線、もう日本海がすぐそこなのです。なかなか来られそうにもないと思っていた所へ来てました、夕べ、、、。

朝方、雨が屋根をたたく音で目が覚めました。大きなショベルカーの傍に止めた車の中で朝食、身支度をして出かける時にはもう青空でした。　杉ノ原スキー場のゴンドラ運転は意外に遅く８時３０分なのです。雪はいっぱい有るんだけれど、お客さんが少ないとの事で、この土、日曜でクローズでした。　今日で良かった！

会長、加藤、私もザックの重量は１４ｋｇ、ゴンドラの正面に朝日を浴びた大きな山が見える、９７年６月に登った黒姫山でした。
ゴンドラ終点から林間を登る、雪は締まって歩きやすい。後ろから五人ほど来ていた。
三田原山の斜面はかなり傾斜がきつく、力がいる。樹林が疎らになる頃はクラストしていて、滑落を感じクトー（スキーアイゼン）を付けて登る。三田原山に出ると、目前に火山丘の妙高山が聳えてる。雪庇で覆われた外輪山を静かに滑る。少しスピードが出た加藤を雪庇に向かっちゃ大変と、会長　絶叫注意！　加藤も体で止めた。　フウゥー、、、。

林の中を滑る、立木をゲレンデのバーのようにコース取りをする会長の滑りは絶妙だ。黒沢池までの長いバーンは快適で何度でも滑りたい、加藤はターンがとても上手になってフォームも綺麗になった。ひろ～い広ーい　真っ白な大自然！　正面の黒沢岳のバーンも凄い！この次はチャレンジしてみたい。この様な、中・上級ルートに山スキー二年目の私がいるのは場違いだけど、面白い、、。　勤労者登山だから体調をベストに保てない時も多いが、それらを克服して私なりの達成感を味わいたい。

今日は山スキーヤーが多そうで、高谷池ヒュッテに早く着かなきゃ一杯になっちゃう、後ろから三人滑ってきた。急いでシールを付け、２１７１ｍの茶臼山を登り、一気に高谷池ヒュッテに滑り込む。三階の窓から転がり込むと、何と昨日から場所取りをしていた東京の労山「自然を滑る会」の人達、十数名がいた。二十人抜きして来たという新潟の三人、次から次から来る、屋根裏の四階まで、日焼けした顔、それぞれのストーブからの湯気、大きな笑い声で小屋は一杯になった。窓から火打山が見える、、オレンジ色の薄化粧をした横顔は、ツンとお澄ましでした。　七時にシュラフに潜り込み明朝五時迄、あふれる幸せ！

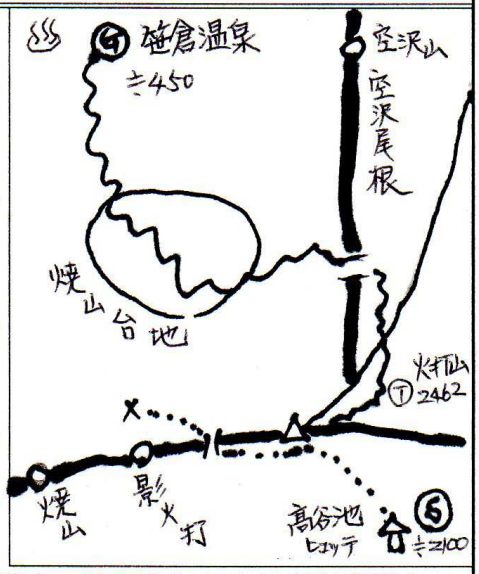
火打山

山　　名	火　打　山（2,462m）	報告者	後　藤　隆　徳
この山の セールスポイント	**純白の頂から標高差２０００ｍを日本海に滑る**		
４月９日（日） コース及びﾀｲﾑ （微風・快晴）	起床5:00/7:15 ～火打山9:05/9:20 ～胴抜け10:00 ～火打山10:30/10:45 ～焼山北面台地13:00 ～焼山橋14:00 ～笹倉温泉14:10 ～バス15:48　梶屋敷駅16:39　　直江津　　妙高高原駅⇨下土狩 23:30⇨4/10 AM 1:00		
標　高　差	△Ｓ高谷池2100～Ｔ火打山2462＝ 362m	体力度	１・２・３・４・⑤・６
	▼Ｔ火打山2462～Ｇ笹倉温泉 450 ＝2012m	技術度	１・２・３・４・⑤・６
		展望度	１・２・３・４・５・⑥

参　加　者				
	CL	後藤隆徳	53	山スキーの醍醐味、正に此処にあり
		小田知典	51	このルートは素晴らしい。来年もやろう
		加藤秀子	51	自然を滑る楽しさ。山スキー万歳!!

三日目

高谷池ヒュッテ３Ｆの寝床から首をもたげると、北側の窓外に端正な火打山が見えた。今朝の起床予定は６時だったが、あまりの好天に５時に目覚めてしまった。積雪の多い今年の火打山は一点の汚れもなく、純白のドレスを纏い、今モルゲンロードに染まろうとしていた。『美しい・・・』表現として、これ以上の言葉は見当たらない。日本にはこんなに素晴らしい自然がある。私達はこれを誇りにしなければならない。



朝の透明感のある陽光を浴びて出発。次第に大きな火打が迫る。先行者が３名。クトー（スキーアイゼン）を未装着で後の２名が危なっかしい。私達は火打の１峰手前のコルでピッケル・アイゼンに代えた。結果その方が速く、準備中に抜かされた１５名程を抜き、私がトップで火打に立った。微風、快晴。360°の展望が待っていた。此れから滑る影火打ルート、焼山北面台地、笹倉温泉日本海方面を確認する。一番のポイントは影火打ルートだった。

実は今回の計画は、妙高スキー場から火打山の往復だった。ところが昨日ヒュッテで笹倉温泉・日本海に下る東京の労山の《自然を滑る会》（後に後藤・加藤は入会する）、新潟の中年３人組と仲良くなり、情報交換するうちに私達もすっかり「その気」になってしまった。本来山では慎重で３５年間、事故らしい事故のない私だったが、この好天と足が揃っている事を考え決断した。そうそう来れる所でもないし、今回が絶好のチャンスだった。

しかし頂上で以前、影火打を滑った人の話では、今年は細いトラバースの部分の雪が非常に狭く悪いという。確かに急な雪壁でストーンと焼山台地に落ちている。偵察がてら歩いて行ってみるとやはり悪く、私達のスキー技術ではヤメた方が良さそうである。結局、再び登り返して火打に戻る。上から前述の２パーティが滑ってきた。《自然を滑る会》の人が『どうしたのですか？』と聞く。理由を話すと、向こう側の空沢（からさわ）尾根のが易しく、自分達も２つのパーティに分けたと教えてくれた。やはり労山の人達は優しかったのだ。

再び火打山に立った。もう誰もいない。結局最後になってしまった。今からでは笹倉温泉

12:39 分のバスには間に合わない。次の15:48 分では帰りが相当遅くなる。しかし、重荷で再び三田原山を登るのは辛いし、何より笹倉へ下れないのは残念だ。小田に相談すると、自分は何時になってもイイという。加藤もヤル気満々だ。ならば行こうと、頂上から直に空沢尾根を滑り始めた。上部はややバーンで尾根も狭い。だけど気持ちイイ。今までの事は全て忘れた。空沢尾根は快適だった。バーン、モナカ、ザラメ、クサレ雪と千差万別。慎重に、豪快に、繊細に、大胆に飛ばす。２人はやや遅れ気味。１４kgの重荷と疲労。そして横滑りを始めとする技術的なこと。だけど初めて本格的なツアーで此れだけ出来れば充分である。

途中の気持ちの良い台地で１本。正面の焼山が大きい。３月に結婚して５月に単独で登った。２３年前の事だ。その時、雨飾まで縦走したが、スキー野郎に途中で抜かれクヤしい思いをした。小田が行動食を食べられない。仕事柄運動不足になりがちで身体がイカまっているのか。いつも気の毒だ。その点、私は常にパクパク。今もお稲荷さん３ツとソーセージ、豆を食った。自分でも不思議である。

快適な横滑りで空沢山の最低コルに出て焼山台地に向かう。此処からかなり急だが、左の沢に降りた方がイイ。２人はやや重い雪に苦労している。加藤が靴の具合が悪いとナキが入った。台地に無事降り、振り返ると火打北面がすごい。良くぞあんな所を滑ってきたと改めて感激。ゆるい登り返しが終わると笹倉温泉に一直線。広大な台地なのでルートが難しい。右に寄りすぎて途中スキーヤーに聞いて左に修正。後は超快適なザラメを笹倉に向かう。何と笹倉温泉の駐車場までピッタリ滑れた。バス待ちの間、サラッとした温泉に入り、ラーメンを喰ってビールで乾盃。無事ツアーは終わったのだ。

バスは滑る会と私達で満パイでその賑やかなこと。さながら修学旅行である。下界に来てサングラス、帽子を脱いだ滑る会の一行１５名は意外にも殆ど私より年配だった。中にスキーアルピニズム研究会の藤倉氏がいて貴重な話を聞かせてもらった。里は未だ１m程の雪で、今年の降雪の多さを物語っていた。ウトウトしていると静かな日本海が、午後の陽光にキラキラと光っていた。

自然を滑る会
井上さんの山行報告

◆妙高・火打山～笹倉温泉

４月８～９日、15人。８日、妙高高原駅８時50分下車。タクシーで杉の原スキー場ゴンドラ乗り場へ。標高１８４０㍍に至る第３高速リフトは運休中で、ゴンドラ終点からスキーにシールをつけ、コースわきの樹林帯を登る。スキー場から西側の谷を標高１９００㍍あたりで対斜面へ渡り、スキーアイゼンをつけ広い尾根を登る。２３００㍍地点で三田原山に続く尾根へ。

三田原山から右手の広い谷を滑り、黒沢池の大雪原へ出る。黒沢岳と茶臼山の鞍部を登り越え、ひと滑りで高谷池ヒュッテに14時到着。冬季開放部屋は30人以上の山スキーヤーで盛況。

4/27 しんぶん赤旗
資料

９日７時40分、朝日に輝く白銀の火打山（２４６２㍍）目指して、シールをつけ出発。雪はまだかたい。雪原を通過し、火打尾根に取り付いたところでスキー板を脱ぎ、山スキー靴にアイゼンをつけて登る。火打山頂からの眺望は３６０度だ。白銀の白馬の山並みが一段と目をひく。

西方鞍部から影火打北面の急しゅんな谷へ。広大でゆるやかな台地をアマナ平経由で火打山川橋へ、標高差２０００㍍を滑り込んだ。笹倉温泉で入浴し、帰途につく。

（埼玉・井上利昭・70歳）